

軽井沢の気品ある自然・景観・歴史を未来につなぐ、新しい庁舎と複合施設の姿『爽風の森』 <テーマ2 将来の庁舎のあり方について、テーマ3 景観形成について、テーマ4 まちづくりにおける新庁舎と複合施設の役割について>



多様な景観を生み出し、将来のレイアウト変更にも柔軟に対応できる「六角形の庁舎」
庁舎を裏側のない六角形平面として建物の周りに多様な外部空間を形づくり、そこに生まれる様々な景観と密接に関係づけるようにします。建物はセンターコア形式で外周部に梁スパンの長い自由に改変しやすい空間をもつことから、将来的に部署の増減や庁舎内に入る機能に変更が生じた場合でもフレキシブルにレイアウト変更が可能です。



まちづくりと「くっかけフットパス」
駅周辺で始動しているまちづくり（ランドデザイン）との連携のため、徒歩や自転車で巡れる動線の軸を敷地に引き込み、既存の街並みや湯川沿いの「森の回廊」と連続する一体的なフットパスをつくります。

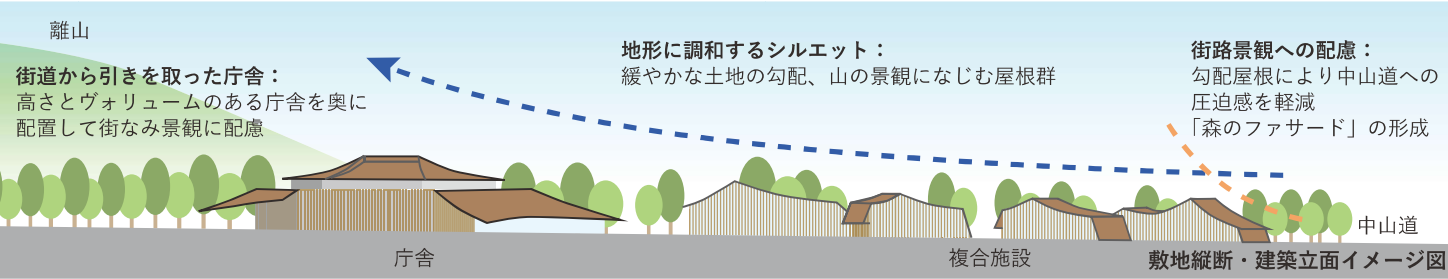
住民主体の開かれた「シビックプラザ」
少子高齢化の諸問題に対し、住民主体の地方自治・まちづくりの重要性が高まりつつあります。議場の一般開放や、待合いスペースを歴史や環境問題などの展示ギャラリーとし、住民の地方自治への関心や自主的な関わりを促す場所づくりが考えられます。

次世代交通 MaaS とリモートサービスへの対応
世界で普及が進む MaaS 自動運転に対応する敷地内経路を確保します。将来、敷地内苑路に自動昇降式の車止めを設置して自動運転車の直接乗り入れを可能とします。また今後、行政サービスのリモート化が進むことで、余剰空間を他機能に転用することが考えられます。センターコア形式で柔軟性のある空間はそのような変更にも十分に対応可能です。

軽井沢の自然・景観・歴史を未来につなぐ「多様性の森」
浅間山の麓に広がる美しい森と、冷涼な気候が人々を魅了し国際的な保健休養地として長く愛されてきた軽井沢。その気品のある美しい貴重な資源である自然・景観・歴史を創造的に継承し、未来につなぐ「シビックプラザ」を提案します。それは多様な価値観を受け入れる「多様性の森」となります。

軽井沢の自然、生態系をつなぐ「森の回廊」
湯川沿いの美しい緑地帯を敷地の中に引き込み、北側の離山方面の緑地とつなぐ、大きな「森の回廊（グリーンコリドー）」を形成します。森はこの地の多様性に満ちた生態系をつなぐと共に、自然景観を結ぶ広域フットパスとして将来的にエコツーリズムの観光資源になります。

中山道の歴史と街路景観をつなぐ「森のファサード」
旧宿場町の歴史と品格を受け継ぐ中山道沿いの街路景観。シビックプラザの中山道に面する範囲を軽井沢を象徴する「森のファサード」とします。建物は低層分棟型とすることで街道への圧迫感を減らし、木立の奥に慎ましやかに建築群が佇む気品ある街路景観をつくりだします。



多様性を受け入れる「懐のふかい森」
軽井沢駅を中心とした商業や観光で賑わう地区に対し、中軽井沢地区に位置するシビックプラザは、住民主体の日常に根差した多様な活動や交流を受け入れ、支援する場所と考えられます。湯川沿いの美しい自然を再生して多様性の森をつくり、そこに適度な間隔を保ちながら低層の建築群を配置し、爽やかな風が流れる個性をもった多様な外部空間を形成します。いろいろな価値観を受け入れるための居場所がある、「懐のふかい森」をつくり出します。

